

2013年度ランチョンセミナー 実施報告

CTLでは「アクティブラーニング入門一歩前」をタイトルに4回に亘るランチョンセミナーを開催しました。2012年の中教審答申以降、多くの大学がアクティブラーニングを展開するためにはどのようなチップスが必要なのか、そのノウハウを求めるごとに汲々としていますが、それはアクティブラーニングを極めて狭隘な視野から「手法」と限定して捉えているからです。本セミナーではそのような近視眼的・皮相的な視野から自由になり、アクティブラーニングを授業において実現するために何が必要なのかを授業実践者である教師の目の高さ、心の位置に敬意を払いながら、学生の成長を軸にして考えることを目指しました。

11月7日に開催した第一回目（通算14回目）のセミナーは「"How To"からの解放」をテーマに開催されました。アクティブラーニングが求められる背景、経緯には「TeachingからLearningへ」「Teacher-centeredからStudent-centeredへ」というパラダイムシフトがあります。まずはこのことを丁寧に読み解くために“How to”という発想から自由になり、“What (not) to”を改めて考える必要があるとの問いかけがなされました。

第二回目（11月21日）のテーマは「初年次におけるPBL～"学問モデル"のススメ～」でした。学問的な真理・真実に対して学生をアクティブな学習者に育てるためには教師が「問い合わせ」を与

えるのではなく、学生に「問い合わせ」を発見・発掘させることが肝要である、その体験が「問い合わせ」の構造を理解することにつながるという命題のもと、活発な意見交換がなされました。

「学生をアクティブにする試み～実践事例の紹介～」をテーマとした第三回目（12月5日）は、例えばグルーピングのような何の変哲もない作業にも学生をアクティブにするチャンスがあることを講師の実践事例をもとに参加者に体験してもらいました。

12月19日の最終回（通算17回）は「私たちもアクティブになります～みなさまの実践事例～」というテーマのもと、自らの創意工夫や苦心談を参加者より話題として提供していただきました。そのどれもが示唆に富るものでした。

いずれの回も終始、和やかな雰囲気のなか、講師と参加者の間で意見や情報の交換が活発になされ、相互に大いなる刺激を受けた模様です。印象的だったのは予定調和的な（事なき主義的な）授業ではなく、「空中分解」を怖れないチャレンジ、トライアルをしてみたいという声が複数あがつことでした。それはまさに教師がアクティブになるという宣言なのだと思います。次年度の開催を望む声もありました。そのリクエストには可能な限りお応えしたいと考えています。

(教育推進部 三浦真琴)

eラーニングの国際学会に参加しました! Learning Assistant LA活動報告

昨年12月10-12日京都大学でeラーニングの国際学会がありました。その際ラーニングアシスタント8名（リーダー：池澤智也）が岩崎（CTL教員）、山本（CTL教員）、田上（CTL研究員）、奥貫（非常勤教員）と共に本学の三者協働型アクティブラーニングの活動実践について6本のポスター発表を行いました。学部生が国際学会に参加し、英語によるプレゼンと質疑応答をおこなうという貴重な体験をしました。

(教育推進部 山本敏幸、岩崎千晶)



ポスター発表の様子



発表したラーニングアシスタント学生と教員

PNC 2013 Annual Conference and Joint Meetings



テーマと担当を次のリストに記します。



- 1 Global Internship Initiative: Opportunities to Envision the University Mission for Globalization (Kaho Suzuki, Shoko Matuda)
- 2 Students-Initiated Course: Curriculum Design involving all Stakeholders (Haruka Nakano, Tomoya Ikezawa)
- 3 Learning Assistant Initiatives to Promote Active Learning in Classrooms at Kansai University (Takahiro Jutori, Tomomi Otani, Ayaka Yamamoto)
- 4 Making the Hearing-impaired Student's Dream Come True (Keisuke Yokote)
- 5 ePortfolio Assessment Strategies (Tosh Yamamoto, Chiaki Iwasaki)
- 6 Course Design for the Advanced Communication to Build Trust (Masanori Tagami, Tosh Yamamoto)